

奈良県黒滝村地域おこし協力隊新聞

くろ たき むら

黒滝村 Lover

Vol. 6

TAKE
FREE

● Cover Place

黒滝村大字鳥住「鳳閣寺」

奈良の
お土産代表！



ほみ 朴の葉すし / かき 柿の葉すし

1個130円(税込)
20個入り2600円(税込) ※全国配送可(送料別)



柿の葉寿司「とらせ」

黒滝村郵便局
期待の星



万葉マフホロボス代表

はぐく
黒滝村郵便局が育んだ
二つの物語！！

★地域おこし協力隊四コマ★
「みんな大好きくろたん花!？」の巻」



ご意見募集中
本誌では、取り上げてほしい内容や取材依頼、企画など幅広く募集しております。また本誌の購読をご希望の方にはお送りさせていただきます。詳しくは地域おこし協力隊白石まで。
お問い合わせ
kurofakimurlover@yahoo.co.jp

奈良県黒滝村地域おこし協力隊新聞
黒滝村 LOVER vol. 6

平成29年7月1日発行
企画 黒滝村地域おこし協力隊
制作・編集 白石隊員 (観光PR担当)
マンガ 作: シライシ画: マルモリ

発行 黒滝村役場企画政策課
〒638-0292 奈良県吉野郡黒滝村
大字寺戸 77 番地
Tel 0747-62-2031
Fax 0747-62-2569

●黒滝村へのアクセス



※平日に限り、村内巡回バス「ふれあいバス」運行。※待ち時間は含まれておりません。また、時間帯により所要時間が変わります。

★黒滝村News★ 鳳閣寺の柴燈護摩



6月9日、京都の醍醐寺三寶院の仲田門跡をはじめとする行者の方々と鳥住地区住民により、鳳閣寺にて柴燈護摩が催されました。大人数による法蟻員の奉納と理源大師和讃の斉唱は荘厳なものでした。鳳閣寺は678年勅命により開山し、聖宝理源大師によって895年に中興されたといわれています。菊のご紋が飾られる大変由緒あるお寺で修験道の聖地とされています。

★話題のひとご紹介★

奈良県吉野郡下北山村 集落支援員 牧 絢さん

平成2年10月27日和歌山生まれ。学生時代は社会福祉学を専攻し、新卒で下北山村のふるさと復興協力隊に就任し、NPO法人「サポートきなり」を他メンバーとともに設立。現在は集落支援員として「サポートきなり」の事務運営に携わっています。



サポートきなり
奈良県吉野郡下北山村寺垣内 1085
Tel 07468-6-0770

●大阪から車で約3時間、壮大な池原ダムを有する人口約850人の下北山村は黒滝村と同じ「吉野郡」に属し過疎問題に直面している村です。
●去る6月10日、NPO法人「サポートきなり」は、下北山村で唯一の図書館「ほごぼん図書館」をオープンしました。理事を務める山本典子さんが、村に図書館も本屋もないという現状を打破する為に働きかけ、村のバックアップのもと、オープンにこぎつけました。
●土日のみのオープンで蔵書も寄付を中心に約2500冊と小規模スタートですが、今後は子供達のために選んだ図書を購入し平日もオープンできるようにしていくのが目標です。
●NPO法人「サポートきなり」は集落支援員の牧さんが「ふるさと復興協力隊」として同村に赴任していた際に、バスが一日に一本しかない村での有償運送を可能にするため、他のメンバーと共同で設立しました。図書館の運営以外にも、それまでは廃棄するしかなかった余剰分の野菜を利用した土曜朝市の開催や、学校給食への出荷、草刈りなどの生活支援活動など多様な活動を行い、今年で3周年を迎えました。

下北山村を盛り立てる現役の地域おこし協力隊・集落支援員の皆様

中林 維吹さん

大阪府出身の25歳。サポートきなりの運営に2年間携わり、今期から下北山村での自伐型林業を担当。



Pick up!!

高原 慎一さん

沖縄県出身の24歳。観光担当としてほたる祭りなどのイベントを企画。



Pick up!!

農業担当 (集落支援員)
樋口 支援員
白さやうりを植えてからというも雨が全然降らないので心配でしたが、長瀬のハウスでは本初収穫できました。



樋口 支援員

観光施設担当
藤田 隊員
人生初めての田植えをしました！最初はまともに歩くこともできず、貴重な経験になりました。



藤田 隊員

食の6次産業化プロジェクト担当
勝原 隊員
もうすぐ七夕ですね。黒滝で天の川は見られるんでしょうか？星空見ながらビールを飲みたいです！



勝原 隊員

林業振興担当
辻本 隊員
透かし彫りで表札作りしました。玄關に吊るしています。名の山口さんからは「まずはお木を見る目を養う事」を教わりました。



辻本 隊員

林業振興担当
住吉 隊員
山仕事の楽しみと云えばお弁当です。白ご飯のお供にもおのりさんの「梅干し」昔おぼあちゃんが漬けていた梅干しと同じ味がします。



住吉 隊員

林業振興担当
久喜 隊員
赤滝の山口さんの工房へお邪魔し透かし彫りをさせて頂きました。頂きたいです！



久喜 隊員

◇隊員のつぶやき◇



黒滝村地域おこし協力隊

黒滝村地域おこし協力隊によるブログ

黒滝村地域おこし協力隊

プロレスの原風景に魅せられて

まんよう 万葉プロレス



代表 **ひろのき 阪本裕巳さん**
 1975年12月6日 榎原市に生まれる。
 スペイン語を専攻した学生時代にメキシコに渡りリングデビュー。
 本場のルチャ・リブレを現地ジムで学ぶ。平成15年4月27歳の
 時に郵便局に就職。岡山の高校文化祭でリングに復帰したことを
 きっかけに2008年榎原市で「万葉プロレス」を旗揚げ。
 平成26年4月に黒滝郵便局に異動、お金のプロとして、
 村民さんの資産形成の相談など幅広い業務に携わっています。

◇子供の頃のおもいでが原点◇

●黒滝村郵便局で勤務する職員さんの中で、身長183cm体重85kgの大きな体で一際目立っているのが、プロレスラーとしての顔も持つ阪本裕巳さんです。子育てをするうちに、現代社会における地域社会の希薄さや、安心して一人で遊べない今の子供達を取り巻く環境をどうにかしたいという思いが高じ、自身の特技であるプロレスを手段として地域貢献できないかと考えるようになりました。子供の頃、お祭りの中で開催されていた試合＝温かみのある電球の色で見た光景＝がプロレスの原風景となり、親と子を、家族と地域社会をつなぐ架け橋になれたらと考えています。そんな思いから、黒滝に転勤してからの三年間、いつか黒滝村で試合ができたらと夢に見ていましたが、年に一度のビッグイベント、今年は8月13日(日)にやまなみステージで開催される「サマーフェスティバル in くらたき」にてプロレス試合を開催することが決定しました。

◇郵便局員として◇

●保険や貯金など金融プロである郵便局員として、村民さんにもっと気軽に相談してもらえよう局員になることが阪本さんの目標です。また、もっともっと郵便局の便利さを住民の方に知ってほしいとも考えています。カタログ販売ひとつをとっても、取扱商品は特産品だけ

ではなく、雑誌やお菓子等、多種多様なもので、「最寄駅の下市口駅にバスで往復1540円かかる黒滝村だからこそ、郵便局の利用価値をPRしたいです。」と語ります。

◇地域に密着したプロレスを◇

●プロレスの本場メキシコでは個人経営のお店の一角にリングがあるくらい、プロレスが生活に密着していました。本場の文化に触れた阪本さんは「万葉プロレス」を、小回りの利くプロレス団体にしたいと考えています。小さなリングで、場合によってはマットだけでやるようなプロレスは、低予算で試合ができるだけでなく、「観客が間近で大迫力の試合を見られる」という大きなメリットがあります。黒滝村をはじめとした奥大和地域など、過疎化に悩む地域での試合をもっともっと増やしていきたいというのが今の目標です。郵便局員としてもプロレスラーとしても、「生活密着」「地域貢献」を目指す阪本さんの姿勢は、そのお人柄と共にたくさんの信頼を得ています。



阪本さんは今年リングデビュー20周年を迎えます。



正義のヒーロー マホロバ

1975年12月6日 榎原市に生まれる。身長183cm体重85kg。
 万葉プロレスの選手兼代表として、各地で戦い、2017年アンリミテッド王座に就く。得意技はマホロバスター。
 尊敬する選手はタイガーマスク選手、大仁田厚選手。本場メキシコの空中殺法ルチャ・リブレを武器に戦う正義のマスクマン。

その正体を知る者はだれもいない...



フランケンシュタイナーを決めるマホロバ選手。



ジンジャー・廣瀬 ワカクサキッド

まんよう
万葉プロレスには、奈良市に住むシカのマスクマン「ワカクサキッド」選手や、河合町の廣瀬神社で生まれ育ったキツネのマスクマン「ジンジャー・廣瀬」選手など個性的で幅広い選手がたくさん所属しています。依頼料は応相談ですが、どこにいてもそんな値段で大丈夫なんですか!?!と驚かれるとか...

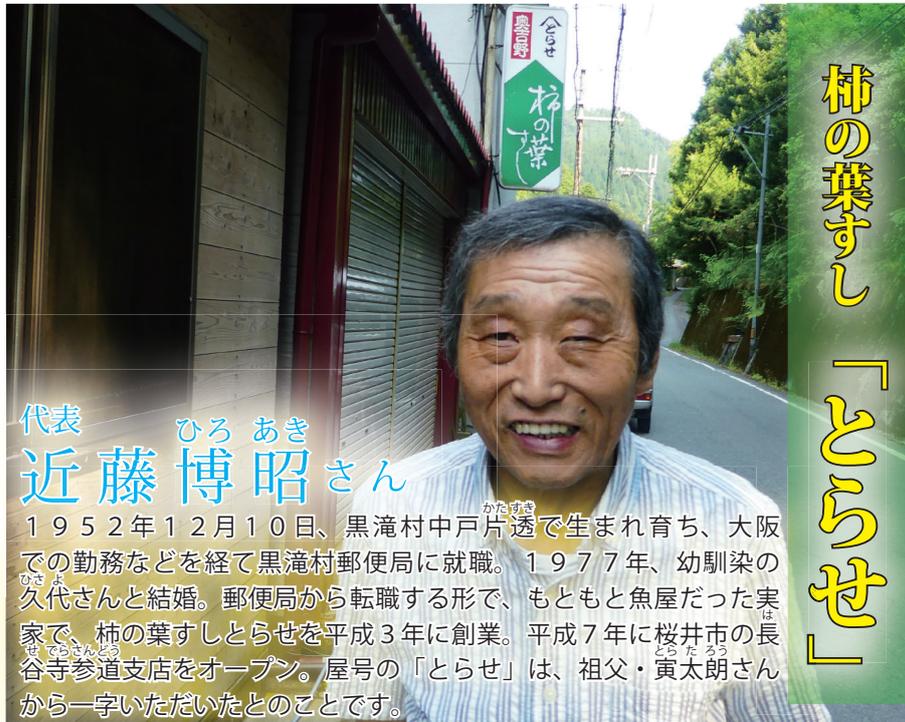


「アンリミテッド王座」のチャンピオンベルトは吉野ヒノキで作られています!!
 通称「日本一良い香りのチャンピオンベルト」!?



まんよう
万葉プロレス
Tel 090-2197-7820 E-mail: man.you.pro@gmail.com

試合のご依頼お待ちしております!!
ご予算ご相談ください!!



柿の葉すし「とらせ」

代表 ひろあき
近藤博昭さん

1952年12月10日、黒滝村中戸片透で生まれ育ち、大阪での勤務などを経て黒滝村郵便局に就職。1977年、幼馴染の久代さんと結婚。郵便局から転職する形で、もともと魚屋だった実家で、柿の葉すしとらせを平成3年に創業。平成7年に桜井市の長谷寺参道支店をオープン。屋号の「とらせ」は、祖父・寅太郎さんから一字いただいたとのことです。

◇郵便局勤務がきっかけでふるさと小包の存在を知った◇

●今や吉野郡を代表する柿の葉すしの名店のひとつ、「とらせ」開業のきっかけは黒滝村郵便局で勤務していた博昭さんが、「ふるさと小包」の配送サービスを知ったことがきっかけでした。全国から注文が来れば、立地が不利な黒滝村でも商売ができるのではないかとということで開業し、ふるさと小包の全国版に広告を出しました。これがヒットし全国から注文が舞い込みました。

●当時は生モノの配送サービスは全国的には普及しておらず、柿の葉すしを大量に運ぶ手段がありませんでした。関東から大量注文があった時には自家用車で直接お届けしたこともあったそうです。

◇お客様との出会いを大切にしたい◇

●お中元やお歳暮など贈り物の配送サービスに注文が殺到し、商売は軌道にのりましたが、お客様との直接の出会いを大切に出来る場所が欲しかった博昭さんは、人通りの多い所での店舗展開を考えていました。そんな折、知り合いのついでで桜井市で空き地を借りることができ、現在の長谷寺参道店を出店しました。長谷寺といえば奈良を代表する観光地です。不況のあおりで徐々に観光客は減少している

ものの、花見シーズンには特に大勢の観光客で賑わいます。

◇柿の葉すしを広めたい◇

●「とらせ」では柿の葉すし以上に、黒滝の郷土料理である「朴の葉すし」をPRしています。柿の葉と違い、青々とした時期が大変短いため、5～7月上旬頃までしか作る事の出来ない大変レアな「朴の葉すし」は、昨年日本遺産に登録されたばかりの「森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ～美林連なる造林発祥の地”吉野”」の構成文化財に登録されています。海のない吉野地域に熊野から運ばれた貴重な海の幸である鯖を、朴の葉すしにして献上したのが始まりで、発祥は柿の葉すしよりも古いと博昭さんは考えています。

●朴の葉すしは大半がリピーターによる注文で、一度注文された方からの評判がとにかく良いそうです。もっといろんな方に黒滝村の朴の葉寿司を味わってほしいというのが「柿の葉すしとらせ」の願いです。



奥さんの久代さんとは幼稚園からの幼馴染みの仲良し夫婦です。



ほお 朴の葉すし / 柿の葉すし

一個130円(税込)

配送は16個入り2080円(税込)から可

※送料別 ※朴の葉すしは5～7月上旬のみ

一度食べたらずいピーターになる!?日本遺産に登録された黒滝村の郷土料理「柿の葉すし」は5～7月上旬にしか味わえない幻の一品。



長谷寺参道店のサイドメニューも大人気。お味噌汁130円 ごま豆腐250円



花の寺として知られる長谷寺へ続く情緒あふれる参道に桜井市の長谷寺参道支店があります。桜、牡丹、石楠花、紫陽花、紅葉などの花見の季節ごとに特に賑わい、さまざまなお客様との出会いが生まれています。



幼名から「せた兄」の愛称で親しまれる父・博宣さんは中戸で魚屋を約60年営んでいました。御年92歳の現在も、商品に使う為の魚を釣っておられます。



柿の葉すしとらせ

奈良県桜井市初瀬 751-2 (長谷寺参道店)
店舗営業時間 10時～18時 ※3～6月/9～11月のみ
Tel・Fax 0744-47-8288 (長谷寺参道店)
Tel・Fax 0747-62-2943 (黒滝本店)

◇配送の電話受付は年中無休◇

オフシーズンは黒滝本店で受け付けいたします。ホームページからもご注文いただけます。お中元・お歳暮・承ります。



ホームページ